

#### 4. 今後の指導改善策

##### 【国語】

学習指導要領の領域	指導改善策
話すこと 聞くこと	<p>○話を批評的に聞く力をつける。 内容を正確に聞き取った上で、不足している部分、不明な点・疑問な点について質問するなどの指導を行う。</p> <p>○メモを取る指導を行う。 話の要点をとらえ、事実と意見とを区別し、自分の意見を形成するためのメモの重要性について理解させる。</p>
書くこと	<p>○手紙の書き方の指導を行う。 頭語・結語、主文・後付けなどを理解させるとともに、時候のあいさつ、敬語や書写の指導と関連付けて、手紙文の文体に慣れさせる。</p> <p>○情報を活用する力をつける。 課題に対して、一つの情報のみで判断するのではなく、複数の情報を吟味しながら自分の考えをまとめていく言語活動に取り組む。</p>
読むこと	<p>○自分の思考や表現を豊かにするために読むことの意識を高める。 様々な文章の内容や構成、表現の工夫を的確に読み取る指導を行う。</p>
言語事項	<p>○音読や朗読の指導を行う。 文章の展開や構成、登場人物の心情の変化などを踏まえ、相手意識をともなう朗読の指導を行う。</p> <p>○漢字の読み書きの指導を充実させる。 使用頻度の低い漢字を使用する文章にふれさせ、言語体験を広げる指導を行う。</p>

【数学】

学習指導要領の領域	指導改善策
数と式	<p>○等式を変形する場合、その根拠を理解できるようにする。            移項の操作を誤った解き方を例示し、移項した際に、どの等式の性質が使われたのかを問うことで、式を変形するときの根拠を明確につかませる。</p> <p>○方程式の立式ができるようにする。            数量の関係をとらえて、ある特定の量に着目して式をつくるようにすることや、線分図や表で表して、等しい数量関係をとらえられるようにする。</p> <p>○数学的な表現を用いて適切に説明できるようにする。            数学科の学習全般にわたって、事柄が成り立つ理由を説明する学習場面で、説明する事柄の根拠と、それによって説明される結論の両方を述べる機会を意図的に設定する。</p>
図形	<p>○錐体と柱体の体積の関係を理解できるようにする。            円錐や円柱など空間図形の体積を比較する学習では、実験や実測を通して、体積の量感を確実に身に付けられるようにする。</p> <p>○証明における仮定と結論の意味を理解し、妥当な根拠を用いて、正しく推論を進められるようにする。            証明をよむ活動を通して、証明を見直し、仮定や根拠の使い方、証明の記述に必要な表現方法を身に付けさせる。</p>
数量関係	<p>○表、式、グラフによる表現を相互に関連させながら反比例の意味の理解を深める。            数量の関係を、表やグラフに表わしたりよんだりする活動を通して、関数関係を式で表わせるようにする。            また、表、式、グラフによる表現を相互に関連付けて関数関係を考察することのよさを感じ得るようにする。</p> <p>○確率の意味を理解し、活用できるようにする。            具体的な事象についての観察や実験を通して、事象の起こり得る場合に関心をもち、それを順序よく整理することや、不確定な事象が起こり得る程度を考察できるようにする。</p> <p>○一次関数を活用して2つの数量の変化を予測し、数学的に説明できるようにする。            2つの数量の関係を表わしたグラフに関数関係を見だし数学的に表現する学習を通して、複雑な事象を分かりやすく説明したり、根拠に基づいて変化の予測を説明したりできるようにする。</p>